

むらやま 議会だより



写真／葉山中学校 令和6年6月北村山地区総体にて

もくじ

- ◎3月定例会 P 2～3
- ◎予算特別委員会 P 4～5
- ◎一般質問 P 6～8
- ◎議会活動レポート P 9～11
- ◎市民の声 P12



←携帯からはコチラ



エクト総額 3億9,083万円

0万円
49万円
を可決

3月
定例会

令和7年第1回定例会は2月26日から3月19日までの会期で開催され、新年度予算などを審議しました。
新年度予算のほか、条例の一部改正など15件が提案され、新年度予算と補正予算は特別委員会に付託し、全議案原案のとおり可決しました。

安心して暮らせるまちづくり

- 新** Link MURAYAMA 南側駐車場整備 2,350万円
- 新** 県防災行政無線設置事業費負担金 3,139万円
- 新** 救急医療情報共有システム運用業務委託 1,546万円
- 新** 土のうステーション設置経費 80万円

地域とともにつくる持続可能なまちづくり

- 拡** 総合行政情報システム運営費 2億9,933万円
誰一人取り残されない優しいデジタル化
- 拡** 不用施設解体工事 1億370万円
旧市営鏡清水住宅、旧勤労青少年ホーム

健やかでやさしいまちづくり

- 新** オストメイト対応設備設置工事 314万円
人工肛門、人工膀胱を造設している方の対応設備
- 拡** 老人クラブ活動助成費補助事業 404万円

地域産業と観光が盛り上がるまちづくり

- 新** 農産物デジタルツール活用販路拡大サポート事業業務委託料 72万円
- 新** 暮らし応援商品券事業 8,755万円
- 新** 万博国際交流プログラム事業 296万円
- 拡** 重点作物推進事業費補助金 343万円

一般
会計

178億1,00

特別
会計

企業
会計

83億1,8

特別会計	金 額
国民健康保険事業特別会計	25 億 7,688 万円
財産区特別会計	72 万円
介護保険事業特別会計	29 億 9,208 万円
後期高齢者医療事業特別会計	4 億 981 万円
企業会計	金 額
水道事業会計	8 億 7,080 万円
下水道事業会計	14 億 6,820 万円



村山市公式キャラクター
ムララ

令和7年度は4億2,201万
円の予算が組まれ、5・6月
は運営業者が決定されます。
現在は、埋蔵文化財の試掘調
査を終え、9月に向け表土撤去、
造成工事に入ります。

どうなる！
新「道の駅」

子育てスマイルプロジェクト

新 保育施設の副食費無償化 1,463万円

新 高校入学等応援金 865万円
高校入学等の準備費用の支援のため5万円支給

誰もが暮らしたいまちづくり

拡 ひばり保育園
屋根外壁塗装工事 1,731万円

拡 流雪溝整備 500万円
大倉中沢地区に新設

未来を担う人を育むまちづくり

新 英語教育推進員の登用 596万円

新 葉山中学校再整備事業 4,996万円

予算特別委員会

予算特別委員会は本会議において設置され、付託された議案は、令和6年度一般会計補正予算及び国民健康保険事業などの特別会計補正予算4件と令和7年度一般会計予算など7件です。

各分科会での新年度予算に対する議員の意見・要望を掲載しました。

活かせ 議員の力

総務文教分科会

●万博国際交流プログラム事業

市の文化、観光資源などを世界に発信できる機会であり、長期的な地域活性化に結びつけること。

●投資的事業について

新「道の駅むらやま」、駅西開発、小学校統合など大型事業が控えており、持続可能な財政運営となること。

●自主防災組織の強化

地域における重要な組織であり災害発生時には行政の負担軽減に繋がることから、今後の地域防災力向上のため育成と支援に積極的な取り組みをすること。

●猫不妊去勢手術費補助金について

一定の活用があるが多頭飼育問題の改善に至っていない。現制度の見直し、関係機関と連携を強化すること。

●税金の滞納について

市税は、市政運営の貴重な財源である。公平・公正の観点からも徹底した徴収業務により、収納率の向上につながるようすること。

●投票率の向上について

若年層の投票率の低迷が課題となっており、出前講座の実施は引き続き取り組み、若年層への周知方法について検討を要望する。

産業厚生分科会

●ポップルームについて

相談件数が前年度より倍増していることから、開所日を増やすなど拡充し、妊産婦および子育て世代に寄り添った支援を行うこと。

●民生委員・児童委員の改選について

12月に一斉改選が行われることから委員選出にあたっては、地区の方と連携を密にして進めていくこと。

●村山市子ども計画がスタート

「子ども・子育て支援事業計画」「子ども・若者計画」「子どもの貧困対策計画」を一体として策定した「村山市子ども計画」において、有効な事業を展開すること。

●クマの出没被害増加について

法改正に向けた協議が進められているが、クマ捕獲については猟友会と行政の連携体制が重要であり、農作物への被害対策の取り組みをすること。

●農地中間管理事業について

事業開始から10年経過し、令和7年度以降は契約更新業務が生じるため、契約更新を滞りなく進めること。

●特定都市河川の指定に向けた取り組み

大旦川は川幅が狭く度々浸水被害が発生しているため、流域の河川改修や連絡水路整備など総合的な治水対策をすること。

3月 補正予算

一般会計予算
総 額

9億2,934万円を追加し、
194億4,042万円

補正予算の主なポイント

I ふるさと納税・基金の積み立て

① ふるさとづくり応援寄附金推進事業
3億1,520万円

(返礼品など経費の増額)
② ふるさとづくり基金積立金
4億5,000万円

II 豪雪対策

① 除雪委託料
5,370万円

② 除雪扶助費
1,239万円

(村山市豪雪対策本部設置により支給上限額を3万円から7万円に引き上げ)

III 過疎対策事業債有効活用

① 親水広場整備事業
5,170万円

(東沢バラ公園親水広場の整備)

② 道路新設改良事業
3,890万円

(幕井貯水地線・東新町南8号線の2路線)

IV 農業の振興

① 担い手確保・経営強化支援事業費補助金
5,283万円

(担い手農家の農業設備への補助)
② 農業水利施設電気料金高騰支援事業費補助金
5,800万円

(農業水利施設の電気料金上昇分を補助)

V 農業基盤整備の促進

① 県営土地改良事業負担金
6,720万円

(大倉地区水利施設等保全高度化事業など)

VI 低所得世帯物価高騰対策給付金給付事業

6,232万円

(国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した低所得世帯への給付金支給)



審議結果報告

(3月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ記載しました)

議員名 議案等の名称			議決結果	市政・公明クラブ											改革クラブ	無党派	賛成	反対	
				松倉慶子	森直也	瀧田順子	柴崎亮太	吉田創	田中正信	矢萩浩次	石澤祐一	大山正弘	秋葉新一	細矢清隆	高橋菜穂子	高橋卯任			阿部正任
市長提出議案	第6号	令和7年度村山市一般会計予算	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	×	13	1
請願	第3号	国民の尊厳を守るために早急に日米地位協定の抜本的改定を求める意見書の提出に関する請願	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	×	×	×	11	3

請願第3号は請願に対する賛否ではなく、再度継続審査にすることに対する賛否です。

議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

☐ = 可決 ☐ = 否決 ○ = 賛成 × = 反対 欠 = 欠席 退 = 退席 議 = 議長 裁 = 裁決

3月定例会 審議討論

○ 議案第6号について

・ 反対討論

中里芳之議員

予算案には、葉山中校舎に小学校校舎を増設する計画を、改修に変更するための費用が計上されている。

「教育的な視点から、低学年にはより豊かなものを」、「低学年向けの校舎は担保したい」というのが統合計画の趣旨。独立した教科教室確保のためにも増設が必要としてきた。

保護者アンケートでは、施設一体型の義務教育学校を望む意見は極少数。計画変更は重大問題だ。

この重大問題を、行政の都合優先で計画変更するのは、議会と民意を軽視するもの。子どもたちの未来がかかった重要な問題だ。

市長と教育長の姿勢には、民主主義の観点から重大な問題があり、予算案には反対する。



田中 正信

次世代を担う教育の重要性に鑑み一層の充実を

答弁 重要課題であり

充実に向け鋭意取り組む

動画はこちら



吉田 創

なぜ増築計画から改修に変更となったのか

答弁 財政負担が大きく

改修でも十分運営できる

動画はこちら



Q 水泳の授業について、民間の屋内プールを利用する動きが広まっているが、既存の学校プールについてどう考えているか伺う。

A 水泳教室の基本的な目的は、子どもたちに、泳力を身につけさせ、水難から自分の命を守ることだと認識している。一方、現在保有する学校プールは老朽化が進んでいる。今後どうすべきかを鋭意検討し、最善の方策を講じてまいりたい。

Q 休日における部活動の地域移行について伺う。

A 検討協議会や種目別の検討委員会を開催するなど、諸課題の検討を進めてきた。それを基盤に、来年度はさらに具体的な課題を詰め令和8年度まで実行に結び付けたい。

Q 学校は、いつの時代も地域に守られ、地域とともに歩んできた。それに感謝するため、学校はボランティアの方との「感謝祭」を開催してはどうか。

A 現在、すべての小学校で地域のボランティア活動者と、子どもとの交流活動を行っている。これからも、地域との交流を大切にしたい。

Q 教科担任制について、本市の現状を伺う。

A 本市は小学校の高学年に対し、可能な限り実施している。

Q 本市は「読書ステイむらやま」宣言をしているが、その一環として「うち（家）読運動」を始めてはどうか。

A 研究・検討したい。



子どもたちの読書風景

Q 令和6年4月に村山市立小学校統合基本計画（答申）が、まとめられた。その後、総合教育会議を経て、答申の内容で進めることが令和6年5月に決定した。しかし、令和7年1月に計画変更となった。葉山中学校の校舎を活用しつつ、その際に不足する小学校の校舎を建築（増築）する計画が、校舎を改修する方針となった。統合計画策定委員会や各地域での説明会、協議を踏まえ1年間議論してきたが、なぜこのタイミングで変更となったのか。

A 令和6年10月に山形県との打ち合わせで、現在の葉山中学校の保有面積が、補助事業を受けるための必要面積を超えていたことにより、国の補助が

受けられないと判明した。国の補助金がないことで、多額の財政負担が必要。増築しなくても、改修で十分学校を運営できると判断した。

Q 増築と改修の総経費の差は。

A 増設約600㎡の場合約10億円を見込んでいた。改修では、5億5千万円。総額で



準備委員会の様子

4億5千万円の差になる。国の補助が無い場合、増設の市負担額は9億1千万円。改修は3億3千万円で、5億8千万円の差になる。

その他の質問
・今後の投資的経費について
・下水道の維持管理について



森 直也

障がい者の就労について

答弁 その時々に応じて

検討していきたい

動画はこちら



Q DEI（多様性、公平性、包括性）やSDGsの取り組みが注目される中で、障がい者の法定雇用率の達成率は半数に留まっております。障がい者の雇用の確保が必要と考える。現状と課題、今後の取り組みについて伺う。

A 障がい者の法定雇用率は市役所では2・52%、企業では2・53%で達成はしている。障がい者の就労の確保についてはすぐにはできない難しい問題である。やらなければならぬ事業であり、その時々に応じて担当者として検討していきたい。

消防体制の現状と課題、今後の取り組みについて伺う。

A 救急搬送数は年々増加しており、救急救命士の重要性は認識している。救急救命士の資格取得は7カ月間の研修を経て国家試験を受けなければならずハードルが高い。今後、手当の支給など他の消防署と連絡を取り合いながら、どのような消防体系がよいのか、検討していきたい。

Q 近年、自然災害や事故による救急搬送が多くなっている。今後も災害や事故、多様な症例などで要請が増加すると考えられる。



就労継続支援事業所での作業の様子



阿部 正任

持続可能な環境保全への取り組みについて

答弁 市民の意識に訴えていく

動画はこちら



Q 近年、記録的な猛暑や豪雨による被害が頻発している。今、一人一人が地球温暖化対策、環境保全に努めることが必要である。

家庭から排出されるゴミの分別回収、再資源化も進められている。一方、クリーンピア共立に搬入され、全体の9割を占める焼却処分される家庭からの、もやせるゴミは、本市分で年間5151t（令和5年度）に及ぶ。

その内訳を見ると、台所残渣などが23%を占め、全体の質量の5割超が水分となっている。市でも生ゴミ（乾燥）処理機などの普及を図っているが、更なる導入促進を図るべきではないか。

A 生ゴミ処理機が普及すればクリーンピアへの負担も減らせ



クリーンピアに搬入される大量のもやせるゴミ

る。環境への負荷量から見て、各家庭での電力を使った処理が良いのか、クリーンピアでの焼却処分が良いのかなど、検討事項である。

Q 農業用廃プラの適正処理や、学校での資源回収などを通して、環境への負荷量から見て、各家庭での電力を使った処理が良いのか、クリーンピアでの焼却処分が良いのかなど、検討事項である。

A 市民各人の意識を上げていくことが大事である。将来のため地道にやっていく。



柴崎 亮太

西部地区に学校は必要か

答弁 必要と考える

動画はこちら



中里 芳之

学校統合計画変更は、将来に禍根を残す

答弁 変更は理解は得られた

このまま進める

動画はこちら



Q それぞれ開校から10年を待たずに統合の議論が出た山ノ内小学校、大久保小学校の建設についてどのように考えているか。

A 市として将来像を見据えて何をすべきかを念頭に置いて進めていかなければならない。

Q 西部地区の今後のまちづくりを考える上で、義務教育学校の存在意義をどう捉えているか。

A 学校があったほうがまちは活性化する。多様性に対応する上でも選択は必要。

Q 西部地区における義務教育学校は、まちづくりの要であり、開校に併せて同時に各事業を展開する必要があると考える。現在計画されている南原工業団地の計画が一年延期

されたことについての根拠は何か。

A 資金計画や法令が大きく関係している。

Q 計画の順序を上位に入れ替える事は可能だったのか。

A 入れ替えは可能。しかし需給のバランスを見て効率よくやっていく必要がある。

Q これまでの西部地区の在り方について、やはり市として腹の括り方が甘かったのではないかと感じる。

西部地区に義務教育学校の設置を決めた時点で市は腹を括ったと解釈する。

10年20年先を見据えた西部地区の在り方についての前向きな議論を望む。

西部地区の中核を担う義務教育学校（予定）



西部地区の中核を担う義務教育学校（予定）

Q 小学校校舎を「増設」し葉山中敷地内に統合する計画が、「改修」に変更されようとしている。小中学生双方に、よりよい教育をするためには増設が必要だというのが、統合計画策定委員会の答申であり、教育長の考えでもあったはず。民意や議会軽視の計画変更は、子どもたちの未来に禍根を残しかねない。統合計画策定委員会を再度立ち上げ、計画見直しの議論を。

A 工夫して改修すれば、増築にある程度見合う。策定委員の理解は得られた。このまま改修で進める。

Q 保護者アンケートでは、施設一体型の義務教育学校を望む意見は少数。ほとんどは従来型学校か施設分

離型の一貫校を望んでいる。計画変更は保護者の意見を無視するものではないか。

A データ的にはそのとおりだが、地域に出て説明し最終的な合意を得た。

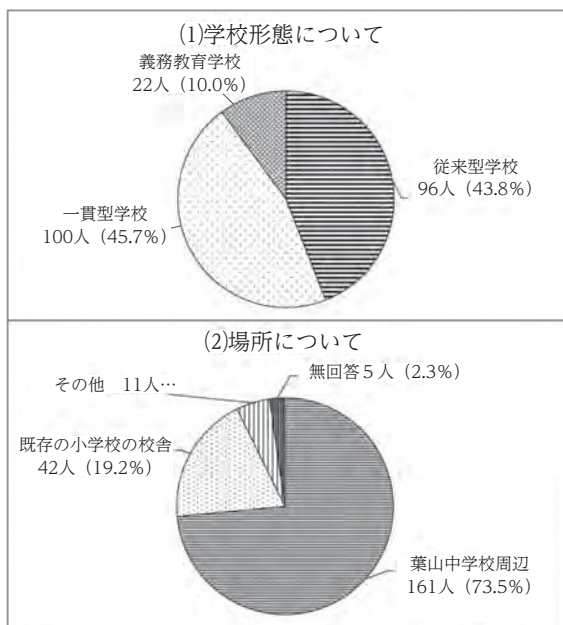
Q つくば市は、「今後は義務教育学校はつくらず、既存の4校については、小学部

と中等部の分離を意識する」としている。どう受け止めるか。

A これが正解かは未知の段階。いろんな実践・研究を吟味しながら研究を進める。

その他の質問
・訪問介護報酬削減の影響と対応について

小学校統合についての保護者アンケート調査結果（西部地区）



小学校統合についての保護者アンケート調査結果（西部地区）

2月13日

・市内新規就農者と

意見交換会

農業者の人口減少と高齢化の進行が加速しています。地域農業の維持・発展のためには、担い手の確保・育成が喫緊の課題です。

市は、就農体験・就農準備・経営開始・経営発展の各段階に応じた支援を弾力的に提供する取り組みとして、「いっくど農業ねっぐプログラム」を立ち上げています。

また、より多くの農業者が連携する「仲間づくり」の観点で、新

規就農者募集の呼びかけや、担い手を目指す人たちへの支援を行うための「担い手創造推進協議会」が組織されています。

新規就農者が連携し相互の経営確立・向上に向けて取り組むことで、担い手としての着実な定着を図る「新規就農者ネットワーク」もあります。ネットワークでは、会員間の交流・情報交換や自主企画の研修活動のほか、

「村山市担い手創造推進協議会」にも加わり自分たちのさらなる仲間づくりにも取り組んでいます。

新規就農者の方からは、

- ・補助金交付の年齢条件の緩和
- ・農業開始時の除雪機や小屋への補助の検討
- ・耕作しやすい畑を見つける方法

などの意見が出されました。



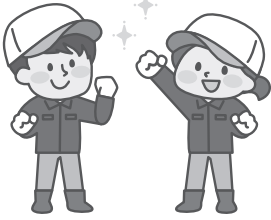
活発な意見交換



新規就農者のみなさんと

雪国の農業は、雪対応・作業機械の確保など、新規就農者にとってたくさんの課題があります。

常任委員会として、意見を集約して政策提言していきます。



3月7日

・地域公共交通について

(1) 社会福祉協議会

外出支援サービスは、市内のNPO法人が行ってきましたが、利用者の経済的負担や利用者家族の負担が大きいこと、また利用者が年々増加したために、社会福祉協議会で実施するようになりました。平日に（必要に応じ土曜日も）稼働し、年間約2800件の利用があります。運転手の高齢化などの課題があげられました。また、令和元年8月からは、買

い物時の不便さやバス停からの帰宅が困難といった声に対応するために、買い物支援サービス事業を始めています。令和5年度は182回稼働しました。調整が複雑なこともあり、今後利用者が殺到した場合、対応しきれないという不安を抱えているとのことです。

(2) 楯岡交通

市営バスの運行は楯岡交通に委託し、山交バスが廃止した路線を補完しています。マイクロバスを使用し、山ノ内線は朝の通学者が多く、河北線はコロナ禍で高校生の乗客が減り、一日平均1人でした。

乗合タクシーはバス停から500m離れた地区で、大倉・大久保・湯野沢・戸沢地区を対象にしています。

市営バスは乗客との会話からニーズを把握



気軽に乗れる市営バス

車椅子タクシーは玄関から玄関まで運行し、市営バスはバス停まで歩ける人、乗合タクシーはバスが走らない地域の人が利用しています。

地域に根差した取り組みを行っており、利用しやすいコースを提案し、市と協議していくとのことです。

産業厚生常任委員会 行政視察

大蔵村・尾花沢市
1月15日

市政・公明クラブ 行政視察・研修・要望活動

福島方面・東京
1月29・30日

(1)大蔵村

・就農者の確保・育成の取り組みについて

村は農業後継者の会「メنز農業」に対する支援を行っています。会は村の若年農業者が集まり、仲間づくりや交流を通じて地域の活性化、農業後継者の育成を目的に結成されました。農業への情熱と、対等に話し合える関係性を大事にしながら活動しています。



トマト収穫量県内1位の大蔵村で話を聞く

スタソースの商品開発を行い、ふるさと納税の返礼品としていました。

・鳥獣被害対策について

令和6年度の捕獲はクマ1頭、サル4匹でした。新規狩猟者確保対策や電気柵設置への補助などを行っています。

(2)尾花沢市

・新規就農支援の取り組みについて

就農支援移住者のほとんどがスイカ栽培農家。研修生は令和4年2人、5年8人、6年6人で、定住率は100%です。

就農移住者は、受け入れ農家のもとで研修生としてスイカ栽培の技術を学び、市の新規就農研修支援を受けています。市単独の支援制度は最高額で年間216万円。国の支援制度額を上回っています。

・新規就農者との意見交換会について



尾花沢市の新規就農者（スイカ農家）と意見交換

受け入れ農家からは「自分のやり方や農業に対する考え方が合わない部分もある」。

新規就農者からは「補助金の内容が変更されることが多い」「市の担当者もわかっていないときがあり、経営計画が狂ってしまう」「補助金のエキスパートの職員を養成してサポートしてほしい」などの意見が出されました。

(1)福島県矢吹町

・屋内運動場

「未来くるやぶき」

福島原発事故の影響で、子どもが屋外で十分に遊びや運動ができる機会が減少し、運動量や体力の低下が見られます。町は「遊びを通して子育て」として屋内運動場を設置し、屋外にはフットサルコートも設置しました。JR矢吹駅の目の前にあり、年間5万人が利用しています。利用者は町内3割、町外7割となっています。



「未来くるやぶき」屋内運動場

(2)福島県石川町

・体験型宿泊施設

「ひとくらす」

廃校を利用して開設された「ひとくらす」

は、体験・学習・宿泊ができる施設です。

「火」と「暮らし」

をテーマに、火の周りに皆が集まるように、この学校に人々が集うことを目指して開設されました。

林業・農業・DIY体験ができ、宿泊機能もあり、他地域からの利用者が増えています。



「ひとくらす」中庭のBBQ施設

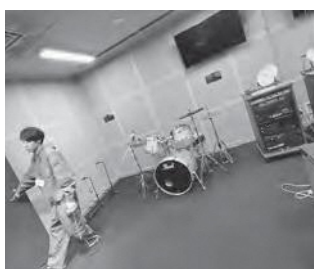
(3)東京都文京区

・青少年プラザ

「b-lab（ビーラボ）」

「b-lab」は中・高校生に自主的な活動と交流の場を提供する、青少年の自主性・社会性をはぐくむための施設です。中高生が「秘密基地」として集い、企

画や運営に関わるなどとても活発な状況でした。



「b-lab」音楽スタジオ

(4)総務省

・「令和7年度
税制改正大綱」

総務省より「物価対策局面における税負担の調整および就業調整への対応」について説明を受け研修を行いました。

また、①最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクトの事業推進について、②東北中央自動車道村山IC付近の浸水対策について、③新規就農者育成総合対策事業の予算確保について、④特別交付税の確保について復興副大臣へ要望を行いました。

東根市外二市一町 共立衛生処理組合議会

1月23日

定例会が東根市議場で開催され、令和7年度一般会計予算など7議案を全会一致で可決しました。

上昇によるごみ処理事業の委託料増加を見込んでいます。

組合を構成する東根・村山・天童・河北

一般会計予算は27億7526万円で前年度比3億9459万円増となります。

増額の要因は、ごみ焼却処理施設の改修に取り組むほか、人件費

各町市の負担金の合計は、14億8558万円です。村山市の負担金は2億2924万円で前年度比2・25%増となります。

広域斎場事務組合議会

1月31日

定例会が河北町役場議場で開催され、会計年度職員の報酬と手当増額に対する専決処分案、各市町の負担金減額補正案、令和7年度斎場事務組合予算案を全会一致で可決しました。

年間の取り扱い体数は1274体で前年度より7体減。そのうち村山市は424体で前年度より5体増となっています。

令和7年度度村山市の負担金は2400万円となります。

県後期高齢者医療 広域連合議会

2月10日

定例会が寒河江市の県国保会館で開催され、令和7年度一般会計予

算、副連合長の人事案件など6議案と議案案1件を原案通り可決・

同意しました。

一般会計は、国のシステム更新完了にともない特別会計への繰り出しが減少し、令和6年度比14・8%減の7億9576万円です。特別会計は、被保険

者数と1人当たりの医療給付費が増え、3・8%増の1694億3147万円です。人事案件は任期満了にともない、副広域連合長に鈴木浩幸朝日町長を再任しました。

組合を構成する村山・東根・尾花沢・大石田の各市町の負担金総額は前年度と同額の8447万円で、村山市の負担金は2556

万円となります。人事案は任期満了にともなう教育長の再任と、3名の教育委員の新任に同意しました。

広域行政事務組合議会

3月26日

定例会が村山市議場で開催され、令和7年度一般会計予算や人事案件など6議案を原案通り全会一致で可決しました。

一般会計予算は9570万円で前年度比2

40万円の増です。人権費や物価高にともない、北村山視聴覚教育センターの電子機器材料リース料などが増えました。また、同センターの音響設備の更新を

定例会が東根市議場で開催され、令和6年度補正予算等7議案を原案の通り全会一致で可決しました。

令和7年度予算は、病院事業収益を55億8691万8千円、病院事業費用を6億1367万1千円とします。

北村山公立病院 組合議会

3月27日

建設改良事業として外科用イメージング装置他6969万円を含み、三市一町負担金の総額は1億6038万6千円で、村山市の負担金は3億3076万

議会活動

1月

- 8日 広報広聴委員会
- 9日 議会運営委員会
- 14日 広報広聴委員会
- 15日 産業厚生常任委員会行政視察
- 20日 産業厚生常任委員会協議会
広域斎場事務組合議会運営委員会
全員協議会
- 21日 北村山三市一町議会正副議長連絡協議会
- 28日 総務文教常任委員会協議会
- 29日 市政・公明クラブ行政視察・要望（～30日）
- 31日 広域斎場事務組合議会全員協議会・定例会

2月

- 5日 山形県森林協会新春林政講演会
- 10日 県後期高齢者医療広域連合議会
全員協議会・定例会
- 12日 総務文教常任委員会協議会
- 13日 産業厚生常任委員会協議会
産業厚生常任委員会報告会及び意見交換会
共立衛生処理組合議会運営委員会
- 18日 総務文教常任委員会協議会
- 19日 全員協議会
- 20日 議会運営委員会
共立衛生処理組合議会全員協議会・定例会
- 21日 広報広聴委員会
- 26日 全員協議会・本会議・予算特別委員会
- 28日 予算特別委員会

3月

- 3日 議会運営委員会・全員協議会
予算特別委員会・本会議
- 4日 一般質問（～5日）
- 7日 総務文教常任委員会協議会・意見交換会
- 10日 予算特別委員会
- 11日 常任委員会・予算分科会（～13日）
- 17日 常任委員長会・予算分科会委員長会
議会運営委員会
- 18日 北村山公立病院組合議会運営委員会
- 19日 全員協議会・予算特別委員会・本会議
- 21日 北村山広域行政事務組合議会運営委員会
- 25日 広報広聴委員会
- 26日 北村山広域行政事務組合議会
議会運営委員会・全員協議会・本会議
- 27日 北村山公立病院組合議会全員協議会・定例会



市民の声



おおぬま しんじ
大沼 晋司さん
(富本)

～ 農業の行く末 ～

富本地域で、スイカ・里芋・秋野菜などを栽培しています。

令和5年度に就農し、今年で3年目の新規就農者です。

実家は、農地を所有していましたが、面積が小さく出荷もしていませんでした。他地域での就農も検討しましたが、生まれ育った地域で就農することを決めました。

農業は、自分の手で一から農産物を育て消費者に届けたり、季節の移り変わりを肌で感じながら仕事ができるなど、とてもやりがいや魅力のある仕事です。しかし、農家は減少しています。

新聞・テレビの報道にあるとおり、農業人口の減少や高齢化の進行、生産コストの上昇など農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。それは農業のことだけではなく、すべての産業でも言えることだと思います。

議員のみなさんには、多様な問題について対策を講じ、改善していただきたいです。



補助金を活用し導入したトラクター



里芋などの栽培のため導入した管理機



白菜づくりにも頑張っていきたい

〈表紙写真〉

葉山中学校には8つの部活動（野球部、陸上競技部、女子バレー部、男子バスケ部・女子バスケ部、男女卓球部、剣道部、吹奏楽部）があり、どの部も試合や大会で良い成績を残せるように、毎日の練習に励んでいます。特に陸上競技部は毎年のように全国大会へ出場する選手を輩出しています。仲間と協力しながら技術を高め、成長できるのが部活動の魅力です。生徒一人ひとり、大好きな部での活動を通し、日々努力しながら充実した学校生活を送っています。



議会の傍聴へお気軽においでください

◎本会議だけでなく全ての会議が原則公開です。お気軽においでください。会議の予定はホームページなどでお知らせします。

◎インターネット中継も配信中 詳しくは、
<https://www.city.murayama.lg.jp/shisei/gikai/index.html>
村山市議会→議会中継
(ライブ中継、録画中継・外部リンクより)



↑携帯は
コチラ

委員長
副委員長
委員

広報広聴委員会

細矢 高橋 中里 田中 阿部 瀧田 森 松倉

清隆 卯任 芳之 正信 正任 順子 直也 慶子